

■EU：エッティンガー欧州委員、域内送電網整備の遅れを懸念

欧州委員会のエッティンガー・エネルギー担当委員は、2012年2月14日に開かれたEU各国エネルギー大臣会合で、加盟国が域内の電力・ガス輸送インフラ整備に消極的であると批判した。北海の洋上風力発電所と大陸間を結ぶ送電系統整備の遅れや、フランス・スペイン間の連系線整備プロジェクトに20年以上を要している実態を指摘し、「このままでは欧州の未来は暗い」と憂慮した。欧州委員会は、交通・エネルギー・通信の分野で2014年から2020年までに500億ユーロ（約5兆2,500億円）の予算を支出することを提案しており、そのうち91億ユーロ（約9,550億円）を各国間の電力・ガスのネットワーク相互接続のために振り向けたいとしている。同委員は「投資家は回収可能性が見通しにくいエネルギー関連への投資を躊躇する傾向があるため、EUの共同投資が不可欠である」と説明し、各国の理解を求めた。